

みんなが幸せに生きられる心豊かな社会を創るために。私が考えるこれからの泉佐野・日本のゆくえ

02 コロナ

コロナを乗り越える鍵は「健康・経済・理解」

おそらくまだ2～3年は新型コロナウイルスの影響は続くと思います。コロナが続くと問題なのは、健康と経済です。この2つを守るには、みんなで理解し合いながら、丁寧に対処すれば守ることができます。

免疫力を上げること。健康づくりが一番重要

自分の体は自分で守る意識を持つことが大切です。たとえ感染しても免疫力が高ければ、重症化を防ぐことができます。免疫力は食事・運動・太陽を浴びる等で高められると言われています。

「地域」でお金を使うこと。合本主義で支え合う。

地域でお金を使えば、東京の大企業は守れなくても、地域の生活・仕事・所得は必ず守れます。渋沢栄一の唱えた合本主義は、企業や人の力強い協力体制です。今役に立つ思想だと考えます。

本当に困った時は各種窓口へ連絡を

- ①コロナ関連経済対策等⇒市まちの活性化課 072 - 469 - 3131 (事業による)
- ②急な生活困難等⇒包括支援センター 072 - 464 - 2366 (地区別ですが)
- ③年金が少ない、生活困窮⇒市生活福祉課 072 - 463 - 1212

日本は最低限の生活を守ることが出来る国です。まずは何らかの相談を。

03 教育

受験一色の時代から 人格・才能・生きる力へ

コロナの影響で、子ども達が学校に通えないという事態となりました。学校とは？教育とは？と多くの方が考えたと思います。受験勉強なら家でいくらでも出来ますが、学校の役割の再確認と転換が必要です。

子ども達が幸せに生きる方法(実学)を教える

子ども達が大人になって、より良く幸せに生きる方法を教えることが教育の根本であると考えます。福沢諭吉の言う「学問」も実学でした。高度成長期とは必要なものが変わってきます。

受験よりも大事なことは山ほどある

これからの時代は良い大学に行けば所得や幸せが保証される時代ではありません。各自に応じた才能を見つけて伸ばし、社会で生きるための人格を磨く場こそが今必要です。

教育はこう変えていく必要がある

- ①教員を増加し、副担任制で手厚く人格育成を行う
 - ②生きるための基礎教育(国語力、計算、道徳)は徹底。
 - ③基礎以上は詰め込まず、子ども一人一人の才能や得意を見つけて伸ばす
- 「勉強ができる」は人の一部分の個性でしかありません。才能は多様です。

04 経済

私たちは、日経平均より 地域経済を重視すべきだ

日経平均株価が上がり続けている現状を見て違和感を感じませんか？地域経済の実態は厳しく、長期間所得水準も上がっていません。東京一極や大企業＝経済という観念を捨て、地域重視へと切り替えるべきです。

国の経済を伸ばすだけでは地方の衰退を生む

1000店舗ある全国チェーンは効率的にテレビCMを流せますが、地域店の売上を奪ってしまい、地域の人々の所得を減少させます。地域経済は一人一人の消費行動次第で取り戻すことが可能です。

国と地域経済のベストバランスで新しい経済を

ですが、すべてを地域経済で縛ってしまったら、技術進歩や国際的な競争力は失われます。大規模な経済に比重を置きすぎる現状を、地域経済へと押し戻し、ベストバランスを保つ経済へ。

地域経済重視は地域のみならず

- ①農業、林業、漁業で地産地消を一人一人が行う。
 - ②地域のお店や会社で買う。そうすれば地域の所得が上がってきます。
 - ③仕組みづくり⇒表面のアプリ、さのぼ、地域金融循環の改善
- 利益追求の資本主義の欠点は格差で、メガ企業の搾取に移行しています。

05 社会

「論語と算盤」を今一度 見直し、豊かな社会を

渋沢栄一は武士に商業を、商人に道徳をと説きました。商業蔑視と拝金主義が国家の衰弱を生んでいたからです。現代はあまりにも拝金主義が過剰だと私は感じています。公共性を高める必要があります。

多くの偉人が経済と心の調和の重要性を説いた

経済学の父アダム・スミスは経済の繁栄には人間の欲や野心が必要だが、道徳心がなければ秩序が失われ社会は繁栄しないと、二宮金次郎も松下幸之助も説いた社会繁栄の真理と言えます。

今こそ道徳心や利他の精神を大事にしよう

メガ企業に「道徳心」と言っても無理でしょう。対抗できるのは地域で地域を守ることです。荒れた社会とならないよう、他人や社会を思いやる心を持ち、人の繋がりを大切にしましょう。

豊かな地域・社会をつくるには

- ①町会や子ども会が実が大切。無駄と思う人が増えたら社会の赤信号。
 - ②デジタル化は好機。地域の繋がりをデジタルで進化させる。
 - ③子どもの教育と共に、大人の社会教育(付き合いから学ぶ)も充実を。
- より良い社会をつくるのは、行政・企業・市民の共同作業です。

06 行政

自助、共助、補完で 高度な共生社会へ

国が地方のことをすべて管轄するような体制には限界が来ており、官僚組織は膨れ上がりすぎたと感じています。国の役割は防衛、外交、警察、社会保障、法律等に限定し、権限を地方と対等にすべきです。

市を府が補完し、さらに国が補完する関係へ

市民が一人で出来ないことを共同で行い、共同でも出来ないことを税金を出し合って市が補完し、さらに規模を大きくしなければ出来ないことを府や国が行う補完関係が最適だと考えます。

補完した上で、高度に共生すれば言うことなし

地方と国どちらかが指示するのではなく、お互いに尊重し合い協力関係を築き、より良い国家・社会を築くという目的の下、高度に共生する統治機構の確立を目指したいと考えます。

市民も市も国も見直しが必要に

- ①市民一人一人の自助と共助をベースに
- ②市町も政策に合わせて広域連携など最適化を実現する
- ③国、官僚機構は一度解体して最小限に再構築。

国家財政の破綻が先か、税・保険料負担増大による不満爆発が先か。

07 メディア

情報と広告(金儲け)は 別物。情報を吟味する

メディアはスポンサーによって成り立っています。メディアも営利企業なので当然ですが、それを理解せずすべての情報を鵜呑みにしては危険です。当然のことながら国民の幸せを第一とする存在ではありません。

情報が広告だらけになっては社会が不安定に

もしもワクチンを作る会社がスポンサーだったら、ワクチンのことを悪く言うのでしょうか？スポンサーは大企業ですから、正しい情報が出せないばかりが大企業をより有利にしてしまう媒体に。

情報過多の時代、情報リテラシーを

今は個人もメディアになれてしまう時代で情報が溢れています。営利が影響している情報だけでなく、どの情報にも主観がありますから、情報を疑いながら、見る目を養う必要があります。

情報対策を整えることが必要な時代に

- ①子どもにも大人にも情報リテラシー教育を充実させる
 - ②他者の批判を喜ぶ文化を喜びを伝え合う文化に改める
 - ③政府、行政は情報の公平性担保と規制を確立させる
- 工業化時代に公害対策があったように、情報化時代にも対策が必要

08 心

心豊かな生活を実現する 心の時代がやってくる

人間は何のために生きるのか？私は幸せになるためではないかと考えています。いろんな幸せの形がありますから、定義付けは難しいですが、社会という共同生活では、心が豊かであることは最重要事項です。

産業は農業→工業→情報へと発展してきた

「情報の文明学」を書いた梅棹忠夫さんは、産業の発展は人間の自己実現の過程とし、消化器⇒筋肉機関⇒五感の充足を実現したと言いました。しかし人類はまだ心の充足には至っていません。

「交通事故より利便優先の時代」から心の時代へ

これまでの産業革命時代は、交通事故のような不幸があっても、産業の発展が優先されてきました。しかし産業が非常に進歩した今、心や環境破壊をなくす方向へ進歩していくと考えています。

経済・社会・教育の方向性となる

- ①次の産業発展は命を守り、心豊かにするものに
 - ②社会・行政も心豊かに暮らせる方向へ進化発展
 - ③教育も学ぶことが変わり、産業人育成から心を成長させる教育へ
- 私は平和や幸せな暮らしを真剣に実現したいと思っています。

09 転換期

価値観が大きく変わる時 若者の行動が鍵を握る

資本主義や旧態依然とした組織など、行き詰りつつあるものはたくさんありましたが、コロナは価値観の変化をスピードアップさせました。間違いなく時代の転換期となると考えられます。

時代にも波があり、歴史は転換を繰り返している

歴史を見てもずっと平穏な時代も、ずっと苦しい時代も続くものではなく、波があり何度も転換を繰り返しています。人や社会が何らかのきっかけで価値観を変えてきたのです。

社会はみんなの力でより良く変えることが出来る

今、社会や暮らしに何の不満もない人はいないのではないのでしょうか。社会はみんなで作っていくものです。明治維新のような革命期は失うものも多く、変化に前向きな若者が鍵を握ります。

変えるべきものは変えていきましょう

私は時代の転換期が来ているという考えで、行動しています。これまでの価値観が変わると考えると、既存の概念にこだわらずより良い社会像を構築することができます。このチャンスはそういった考えで作成しました。
変化は誰かの行動から始まります。

